

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		公表日					2025 年 5月 1日
わくわくエジソンあべの帝塚山教室							
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・学習室、プレイルームなど目的に合わせてスペースが分けられている ・学習室や遊び部屋、個室があり、十分にある ・4つの部屋全体を見通せる工夫をしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	75%	25%	・スタッフの人数も足りています。 ・十分である。	・スタッフ不足	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・区切られていてわかりやすい。 ・見通しができるようにしている	・今後必要であればバリアフリー化を検討する必要がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	75%	25%	・定期的におもちゃや教材の消毒、入れ替えを行なっている ・毎日子供達と掃除をしています。 日々清掃を行っている	・もっと除菌したほうがいい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		・複数の部屋に分かれている ・4つの部屋があるので事務所で話せる空間があります		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	75%	25%	・定期的に会議等で話し合いを取り組んである ・週に一度スタッフ会議を設けている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・保護者とコミュニケーションを取っている ・話し合い改善に努めている ・教室内に掲示		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	75%	25%	・週1で会議を行なっている ・スタッフ会議で意見交換している ・会議などをもうけて意見などを交わしている	・改善してもらえない	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	75%	25%	・大学の講師の先生と会議などを月1回している ・相談支援員などが訪れられる環境である ・教室内にアンケート結果を表示している	・改善してない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・月に一度レベルに合わせた研修がある ・社内研修が充実している ・発達障害の先生の講師を招いて受けています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	75%	25%	・利用者の保護者には連絡帳で、世間にはInstagramで公表している ・カレンダーにて詳しく記載している ・プログラムは毎日おこなっている	・未資格者がプログラムしている事に違和感がある	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		・児童発達支援管理責任者によって作成されている ・個別支援を行なっている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	75%	25%	・管理者や責任者とのコミュニケーションをとっている ・スタッフミーティングによって共有されている ・支援に役立つ情報交換を行なっている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・会議などをもちいて意見の話し合いをしている ・報連相を心がけている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	75%	25%	・子供達とコミュニケーションをとっている ・研修で方法を確認、共有している		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・必要に応じて個別面談を電話相談を行なっている ・保護者との個別支援を行なっている		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	75%	25%	・同じ内容の繰り返しにならないよう、気をつけている ・会議で意見を話し合っている ・相談、確認しあっている	・いいえ
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・スタッフ間でいいアイデアがあれば共有する ・半年間は被らないように設定されている ・毎日違ったプログラムをしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		・できている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	50%	50%	・お休みのスタッフでも確認できるよう、チャットアプリを活用 ・会議や話し合いをしている	・すぐに送迎が始まるので、前日での確認になる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		・仕事が終わった後も気付いた点など話し合っている ・スタッフの物理的距離が近いので共有できている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・連絡帳、問題行動の記録、協調運動障害に関しては専門のスタッフにレポートを共有している ・記録し、振り返りしている ・ノートに書いてパソコンに打ち込んでいる	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	50%	50%	・責任者が保護者と個別指導計画書をしている	・モニタリングはどこがしているかわからない
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		・できている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		・選択が尊重されているようにおもう ・一人一人合った勉強をしている ・子ども主体の活動に取り組む	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・管理者や責任者が行っている ・担当者会議に出席	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	50%	50%	・教室の近くに福祉の子供食堂があるので深いお付き合いをさせていただいています。 ・月1.2回のペースで阿倍野区福祉協議会のイベントに参加している	・医療の連携は見られない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		・学校や保護者と連絡をしています。 ・電話やメール、ファックスにて行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75%	25%	・福祉の会社と連絡を取り合っています。	・あまり機会がない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	50%	50%	・相談支援員や保護者を通して行っているとされる ・障害福祉会社と共有しています。	・あまり機会がない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	50%	50%	・参加しています。	・あまり機会がない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	・社会福祉協議会にて、地域ボランティアの中学生との交流がある ・福祉の会社と交流しています。	・近くの公園や、子ども食堂への参加など閉鎖的ではないが交流を目的とした活動の機会は多くない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	25%	75%	・機会があれば参加しています。	・できていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・小さなことでも報告する ・送迎や次回連絡で行っている ・コミュニケーションは取っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		・個別支援計画の際には対応力向上の助言はあると思う ・親子イベントをしています。	・機会があればペアトレもやっていきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	75%	25%	・プログラムは毎日やっている ・管理者によってされている	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		・イベントを行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		・同意してもらってる	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		・管理者や責任者が面談をしている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	50%	50%	・親子クッキングは年に一度設けている	・あまり機会がない
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		・すぐにミーティングを開き、迅速な対応ができています ・早めの対応を心がけている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		・SNSなど毎日発信している ・インスタを活用している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・業務最後に確認している	・紙で持ち出した際のクリアファイルやカバンに工夫が必要だと思われる
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・できています	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25%	75%	・福祉会社と交流している	・行っていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・カレンダーに記載している ・事業所にファイルである	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・スタッフと子供に向けてそれぞれ実施している ・プログラムで避難訓練している ・BCPの書類が揃っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		・会議などで意見交換している ・事前に確認できている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		・食べさせないように把握している ・入社時に確認している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・定期的に見直している ・安全に配慮している	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		・保護者にも事業所を見に来てもらっている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・ヒヤリハットのマニュアルがある ・全員で確認している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・虐待防止委員会の設置	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	75%	25%	・できています	